

## 当施設における新型コロナウイルス検査の現状について

◎新井 渚<sup>1)</sup>、佐藤 奈都美<sup>1)</sup>、武末 久美子<sup>1)</sup>、森 圭介<sup>1)</sup>、金田 光稔<sup>1)</sup>、神山 清志<sup>1)</sup>  
浦和医師会 メディカルセンター<sup>1)</sup>

【はじめに】新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2019年12月に中国河北省武漢市で初めて確認された後、急速に感染が拡大し、今でも世界中で感染対策がとられている。新規感染者の増加に伴い、当施設では、2020年5月14日より検体採取及び核酸増幅法を用いた遺伝子検査（PCR検査）を開始し、2021年4月1日より会員施設を対象とした受託検査を開始した。今回は、当施設で行った新型コロナウイルス検査について集計したので報告する。

【方法】当施設での検体採取は屋外にて、ドライブスルー方式、ウォークイン方式を採用した。採取した検体は、直ちに細菌検査室に搬入しPCR検査を行った。受託検体は、当施設の集配部が回収、または直接持ち込む方法で預かった。検体は3重包装をし、他種検体と混在しないようにした。

【対象及び集計方法】2020年5月14日から2021年10月30日の期間に当施設で採取した検体、会員施設より受託した検体を集計対象とした。検体は、当施設は鼻咽頭拭い液、受託した検体は、鼻咽頭拭い液に加え、唾液も対象検体とし、総検査数および陽性数、月別検査数、日別検査数、年代別検査

数および陽性数などに分類、集計した。測定機器は、TRC Ready-80（東ソー株式会社）を用いた。

【結果】総検査数は6,417検体で、陽性数は805検体であった。総検査数の内訳は、鼻咽頭検体は3,554検体、唾液検体は2,863検体であった。陽性検体の内訳は、鼻咽頭検体が438検体、唾液検体が367検体であった。月別検査数は2021年8月が1,570検体と最も多く、次いで2021年7月の743検体であった。日別検査数は2021年8月23日が120検体と最も多く、次いで2021年8月24日の113検体であった。年代別検査数が最も多い年代は20代であった。陽性数は30代が最も多かった。

【まとめ】検査数の推移は、緊急事態宣言などの発令と相関が認められた。検体別の陽性率は同等な結果であった。男女別陽性数は男性のほうが多かった。集計期間中、全国的にワクチン接種が開始されるとともに、年代別検査数も若年化し、検査数も減少傾向を示した。さらに集計を継続し、動向を注視していく必要がある。連絡先:048-824-1629 EXT;311